

時間依存インヴァージョン解析により推定された余効滑り分布

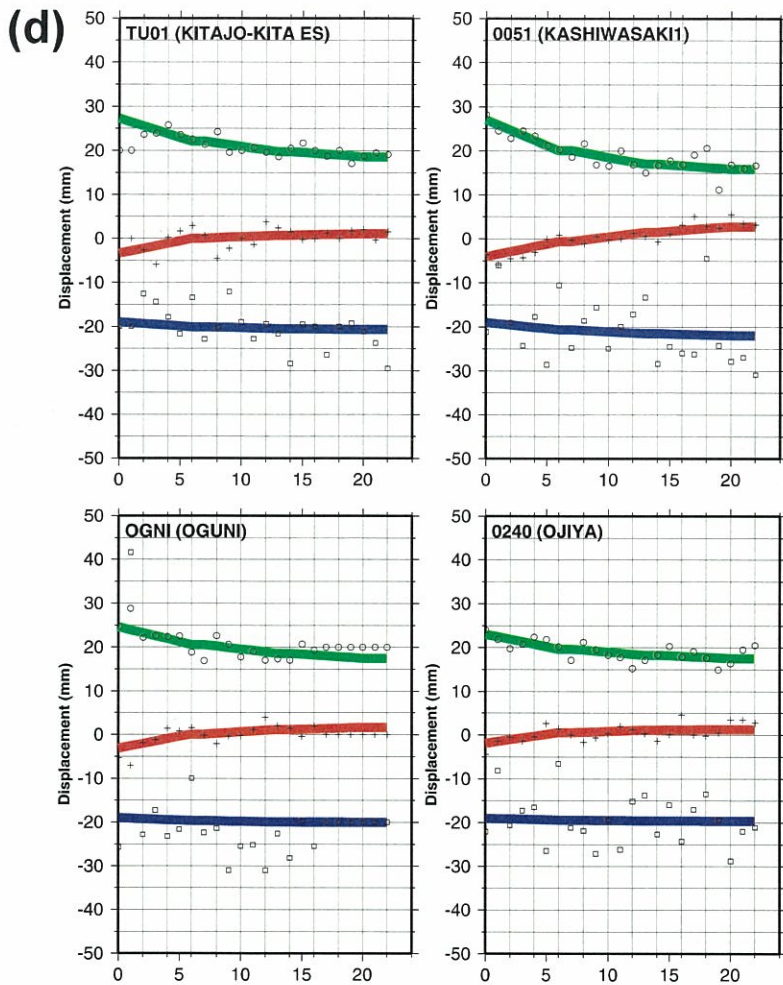


Fig. 5 (つづき) (d)GPS臨時観測点(GPS大学連合設置)およびGEONET観測点における, 中越沖地震後の局位置変化と推定された余効滑り分布から計算された変位. 上から東(緑・白丸), 北(赤・十字), 上(青・四角)方向の変位を示す. 横軸は2007年7月16日からの日数. (e)推定された余効滑り分布およびそれから計算された変位と観測値の比較. 黒矢印が観測値, 白抜きの矢印が計算された変位. (d)に例示した時系列と対応する観測点を図中に4文字のコードで示す. 観測値は, 地震直後の5日間(7月16日-20日)と解析期間最後の5日間(8月2日-6日), それぞれにおける平均位置の差をとって計算した.

